

2) 妊娠期の母子関係

—— 妊娠用文章完成法 (SCT-PKS) の作成とその統計的分析 ——

川 井 尚 齊 藤 晃
庄 司 順 一 河 野 洋二郎
恒 次 欽 也 小 林 臻
吉 田 弘 道 二 木 武

はじめに

母子相互作用の研究や、プラゼルトンも指摘するように、実際の母子への援助の活動もその出発点は出生後ではなく妊娠期にあると考えられる。

そこでわれわれは、妊娠期からの縦断追跡研究を行なうとともに、妊娠期の胎児との関係とそれに影響を与えるであろう諸要因を明らかにするために文章完成法 (SCT-PKS) を作成し、前年度は得られた主たる反応とその比率を報告した。

本年度は実にその反応を統計的に分析し、胎児との心理的な関係の様相をみると同時に実用化への手掛りを得ることを目的に研究をすすめた。そして、これらの資料を検討し、SCT-PKS の改訂版を作成するとともに、母子相互作用に影響を与えられる夫用のSCT-PKS を作成したので併せて報告する。

方 法

SCT-PKS の項目は、結果に述べる母子相互作用に影響を与えられる6領域を設定し、作成した。

資料の収集と整理方法

マタニティスクール受講妊婦600名に配布し会場で記載させ回収した。回収率は72.5%435名である。得られたデータについて各項目毎に反応を整理し、カテゴリーに分けコーディングナンバーを付した。そして各被験者毎に反応をコード化した。

これに基づいてその反応パターンの分類にどのような要因が関与しているのかを明らかにするために数量化第IV類を適用し項目のカテゴリー分析を行なった。

この処置にあたって、SCT-PKS の項目作成

上あらかじめ仮定した領域別に行ない第3次元まで軸を抽出し、項目カテゴリーの分布を2次元上に図示し、共通した意味をもつと考えられる要因のまとまりを求めた。

なお、III類によって得られた各軸毎のまとまりの程度を示す相関係数は表に示す通りであり、ある程度高い相関を示し計測の精度は高いものと考えられる。

なお、臨床上注目されるものを特異反応、ある項目に反応のないものをRej (拒否)、そしてある項目以降全ての項目に反応のないものをFail (失敗)とした。

結 果

以下各領域毎に共通した意味をもつと考えられるものを記述する。

1) 領域1. 母親と胎児との関係

この領域では④特異-拒否、たとえば妊娠に気づいたとき、暗たんたる気持ちになった等の特異反応と、妊娠を拒否する気持ちと、⑥胎児への関心と妊娠を喜び受容する軸によって項目カテゴリーが分類されている。

そして、胎児の健康や無事を願うなどのポピュラー反応、妊娠を受容し胎児への肯定感、胎児への肯定的な関心を不安、おそれの並存した感情、特異反応、拒否的なニュアンスをもつRejの5つの意味的なまとまりを領域1は示している(図1)。

2) 領域2. 母親と子どもとの関係

この領域は、④拒否と心理的距離が小なもの、たとえば私にそっくり或は私みたいな子どもになるといった軸及び⑥心理的距離大、たとえばべったりせず離れてなどと無関心、④特異反応と心理的距離小の軸によってカテゴリーが分類される。

意味上のまとまりは、愛情が大切である。育て

るうえでの願望などのポピュラー反応、私に似ているなどの自己同一視の強いもの、私の子どもはどうしようもないだろう、或い自分の母子関係からみて不安などの特異反応、拒否、そして反応失敗にみられる無関心におかれている(図2)。

3) 領域3. 父親と胎児及び夫婦関係

この領域は、④特異と関心、⑤安定した関係と無関心、⑥拒否と特異の軸によってカテゴリーが分類されている。

そして意味上のまとまりとして、赤ちゃんが生まれるときいて夫は喜こんだ、夫と私は仲がよいなどのポピュラー反応、他人ごとみたい、これでいいの、精神的にまいているなどの特異反応、そして無関心の3つにおかれている(図3)。

4) 領域4. 母親自身の親子関係

ここでは⑥拒否-無関心、⑦特異-無関心、⑧特異-拒否の軸によって項目カテゴリーが分類されている。そして、仲が良い、気が合う、出産あるいは孫を楽しみにしているなどのポピュラー反応、距離をもつようにしている。縁が薄いなどの特異反応、拒否、そして無関心という4つの意味上のまとまりを示した(図4)。

5) 領域5. 母親の過去、現在、将来及び情熱状態

この領域は⑥拒否-無関心及び紋切型の一般的な反応、⑨自己疑惑、たとえば自信がない、生き方に不安、自分ではうまくできないなどと無関心、⑩特異と懸念の軸によって項目カテゴリーが分類される。

そして、意味上の4つのまとまり、即ち、子どもの頃私は元気、活発、よく遊んだ、私は今幸せなどのポピュラー反応、自己への疑惑、将来への懸念、及びおとなになるのがいや、子どもを早く分離したいといった特異反応である(図5)。

6) 領域6. 女性性

この領域は、⑥拒否-特異、⑪願望-無関心、⑫特異-願望の軸によってカテゴリーが分類されている。そして、私は女性として幸せ、妊娠を誇りに思っている、私のからだは太った、変化したなどのポピュラー反応、私は女性としてこれこれになりたいという願望、拒否、無関心の4つの意味上のまとまりを示した(図6)。

考 察

各領域ともそれぞれポピュラー反応がまとまりをみせ、これがおおよそその妊娠期の一般的な心理状態を反映しているものと思われる。

本研究の中心テーマである母親と胎児との関係では、特異-拒否のネガティブな軸と、胎児への関心と妊娠を受容するポジティブな軸とによってカテゴリーが分類されて、これが他の領域及び母子相互作用とどのようなつながりをもっているのかが今後の検討課題である。

胎児への肯定的な関心と不安、おそれの並存感情は妊娠期の心理面接の経験からも一般的な心理状態と思われる。

生まれてくる子どもとの関係では、心理的距離がカテゴリー分類に寄与しており、これは、初産婦が多いためと考えられる。

統計上の検討を加えていないので明確にはいえないが、反応を吟味していくと、母親自身の親子関係のネガティブな傾向と、夫婦関係の不調、そして母親と胎児及び子どもとの関係に対応がみられ、今後の検討を必要としている。

また、全領域にわたって特異-拒否・無関心が反応パターンを分類する要因として大きな役割をもっていることに注目される。

従って、特異反応、反応拒否、反応失敗の3つは、妊婦の精神衛生に関する臨床に、そして乳児期の母子相互作用に関してひとつの手掛りを与えてくれるものと考えられ、追跡研究を必要としている。

しかしながら、本研究での対象者がマタニティスクールの受講者であり標本の偏りと考慮せねばならず一般化することはできない。

妊婦用SCT-PKSの改訂、及び夫用SCT-PKSの作成について

反応の整理と統計的検討から、項目の削除、表現の変更、新しい項目をいれ、妊婦用SCT-PKSの改訂版を作成し、現在産科外来病棟、母親学級、保健所においてデータを収集している。また、夫も妊娠期の母子関係に大きく寄与していることがデータから読みとれ、夫用のSCT-PKSを妊娠用に準じて作成した。

今後妊婦、夫用のSCT-PKSの標準化を試みな

がら、妊婦期から乳児期までの縦断的な母子相互作用に関する観察研究を続行し、有用な知見を得たいと考えている。

付

妊婦用SCT-PKS 改訂版

1. 私は子どもの頃
2. はじめて妊娠に気づいたとき、私は
3. 私は母と
4. おなかが大きくなってくると
5. 夫と私は
6. 出産
7. 母に甘えたこと
8. もし私が男だったら
9. 私ときょうだいは
10. 赤ちゃんが生まれるときいて、私は
11. 私は子どもと
12. 妊娠して私のかわったことは
13. 子どもを育てることは
14. 私が泣きたくなるのは
15. 父は
16. 心配なことは
17. おなかの赤ちゃんが動くとき
18. 夫に対して私は
19. 私は女として
20. 父と母は
21. 私は将来
22. 乳房
23. 夫はおなかの赤ちゃんに対して
24. 困りはてたとき、私は
25. 私の子どもはきっと
26. 私は父と
27. 私が妊娠して、夫のかわったことは
28. 私のからだは
29. 父に甘えたこと
30. 私はおなかの赤ちゃんに対して
31. 仕事
32. 母は
33. 性
34. 子どもが泣きやまないとき
35. 私は母親として
36. 夫と子どもは

37. 親友は
38. 夫の親と私は

男性用SCT-PKS 初版

1. 私は、子どもの頃
2. はじめて妻の妊娠に気づいたとき、私は
3. 私と母は
4. 妻のおなかが大きくなってくると
5. 妻と私は
6. 出産
7. 母に甘えたこと
8. もし私が女だったら
9. 私ときょうだいは
10. 赤ちゃんが生まれるときいて、私は
11. 私は子どもと
12. 妻が妊娠して、私のかわったことは
13. 子どもを育てることは
14. 私が泣きたくなるのは
15. 父は
16. 心配なことは
17. おなかの赤ちゃんが動くとき
18. 妻に対して私は
19. 私は男として
20. 父と母は
21. 私は将来
22. 乳房
23. 妻はおなかの赤ちゃんに対して
24. 困りはてたとき、私は
25. 私の子どもはきっと
26. 私は父と
27. 妊娠して、妻のかわったことは
28. 私のからだは
29. 父に甘えたこと
30. 私はおなかの赤ちゃんに対して
31. 仕事
32. 母は
33. 性
34. 子どもが泣きやまないとき
35. 私は父親として
36. 妻と子どもは
37. 親友は
38. 妻の親と私は

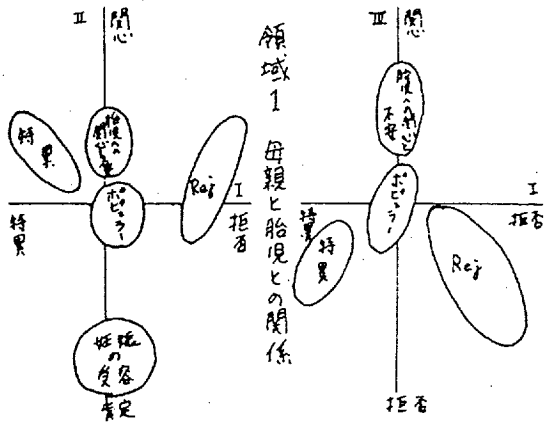


図1

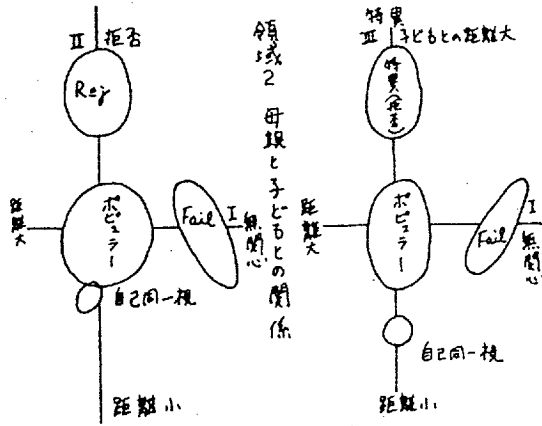


図2

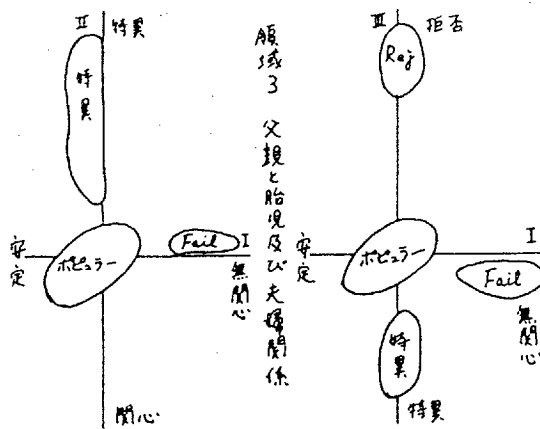


図3

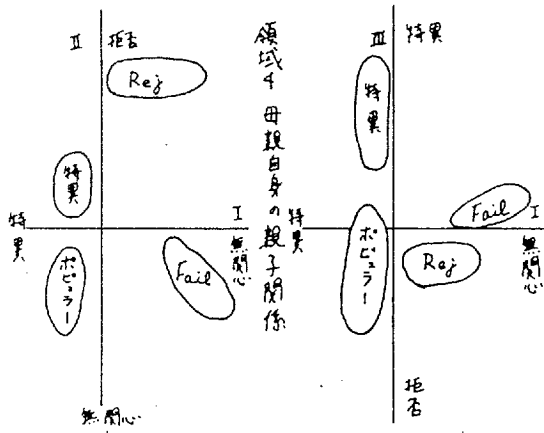


図4

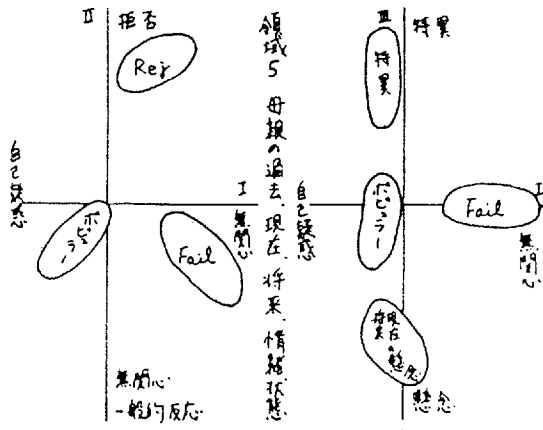


図5

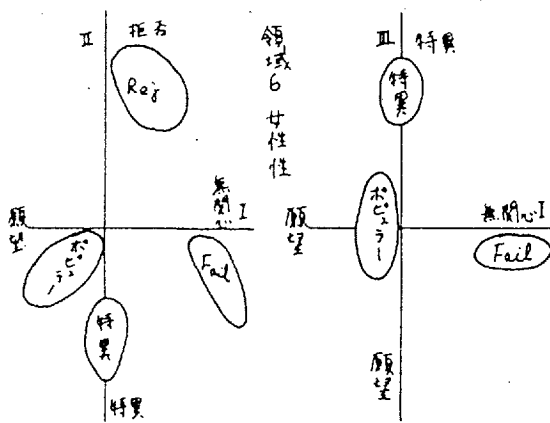
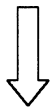


図6



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

母子相互作用の研究や、プラゼルトンも指摘するように、実際の母子への援助の活動もその出発点は出生後ではなく妊娠期にあると考えられる。

そこでわれわれは、妊娠期からの縦断追跡研究を行なうとともに、妊娠期の胎児との関係とそれに影響を与えるであろう諸要因を明らかにするために文章完成法(SCT-PKS)を作成し、前年度は得られた主たる反応とその比率を報告した。

本年度は実にその反応を統計的に分析し、胎児との心理的な関係の様相をみると同時に実用化への手掛りを得ることを目的に研究をすすめた。そして、これらの資料を検討し、SCT-PKS の改訂版を作成するとともに、母子相互作用に影響を与えられる夫用のSCT-PKS を作成したので併せて報告する。